

経営比較分析表（令和元年度決算）

秋田県

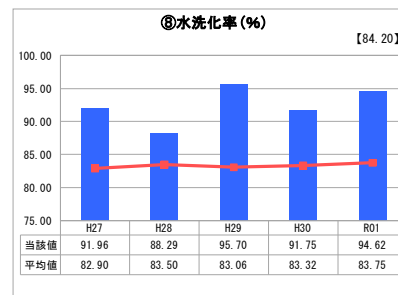
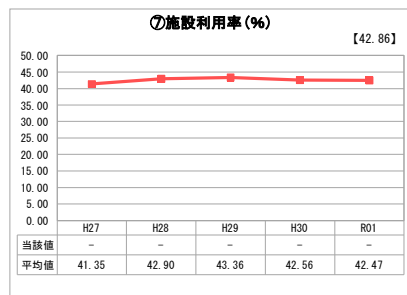
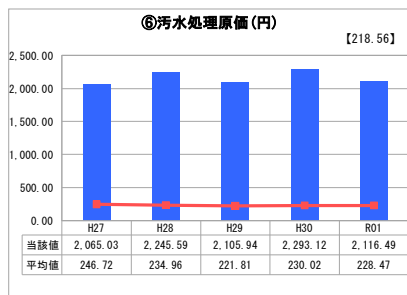
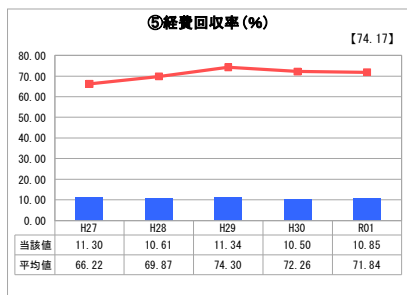
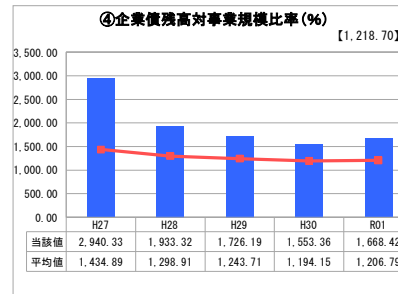
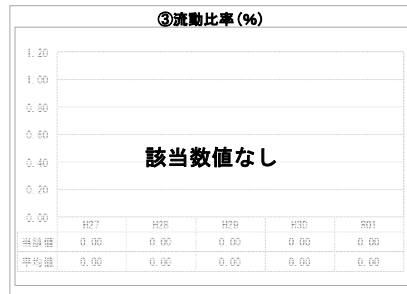
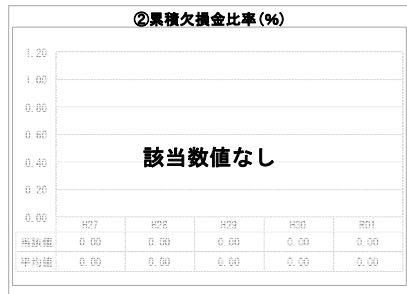
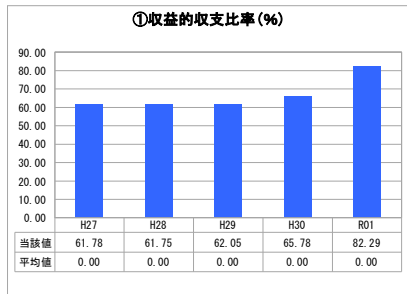
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	1.88	61.67	2,100

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
985,416	11,637.52	84.68
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
93	0.54	172.22

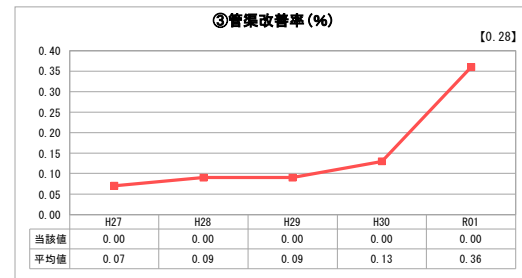
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率
前年度比16.51ポイント上昇しているが、主要因は企業会計への移行に伴う打ち切り決算による影響である。他、変動要因としては、使用料収入のうちホテル等の宿泊施設が約8割を占めており、これらの収入変動が指標に影響を与えている。

④企業債残高対事業規模比率
企業債の償還に伴い、企業債残高は減少傾向にある。

⑤経費回収率及び⑥汚水処理原価
類似団体平均値と比較すると大きく乖離しているが、本事業は、十和田湖の水質保全を目的として青森県と共同で実施しているものであり、単純な比較はできないと考えている。

⑧水洗化率
本事業の処理区内人口が極めて小さいため、指標は人口の増減による影響を受け易く、近年は増減を繰り返している。

2. 老朽化の状況について

破損が増加する目安とされる整備から30年経過する管渠が、今後10年間で7割以上となることから、今後はストックマネジメント計画により投資の最適化を図っていく。

全体総括

県内有数の観光地である十和田湖の水質保全のため本事業を継続していく必要があることから、経営戦略に基づき、ストックマネジメント計画による施設の改築・更新、公営企業会計の適用により、更なる経営改善に取り組んでいく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。